

1 「本質的な問い」による単元構想について

- 本単元の本質的な問い「私たちは地域とどのように関わり、どう生きていくのか。」を基に、生徒が自ら問いを見出すことができるよう単元構成を工夫した。単元を通して、生まれ育った川尻の地域を調べる活動や、高齢者の思いを知る活動を行い、地域と関わって生きるために「自分たちは何ができるか」を問い続けることで、一人一人が課題意識をもつことができた。また川尻に暮らす一員として、自分たちが考えた地域との関わりを生かす防災カレンダーを作成し配布する活動を通して、地域をより深く知ることができた。今後さらに主体的に地域で働く方や高齢者と関わっていく生徒の姿が期待される。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

【知識・技能】

地域について学び、主体的に考え活動できたことに満足している生徒	97.9%
地域と自分たちとのつながりについて考え、防災カレンダー作りの活動をする前と、後とで地域に対する気持ちに変化があった生徒	81.3%

- 民生委員の話や調べ学習によって、川尻町の地域の地形や人口など特徴や実態を理解し、目的や対象に応じた活動を行うことができた。
- 川尻という地域と自分たちとのつながりを理解することは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付くことができた。

【思考・判断・表現】

- 地域で働く方や高齢者と関わっていくために何が必要かなど、課題を明らかにし、地域と関わって生きるために必要な情報を多様な方法で収集し、整理することができた。

【自立・郷土愛】

- 地域とのかかわりの中で、異なる意見や他者の考えを受け入れながら、自分ができることを考える姿が見られた。またそれらは今後の活動につながるものになったと考える。

【事後アンケートによる生徒の記述より】

- ・ これまでは、地域の一員という意識がなかったけど、どこに誰が住んでいるのかがわかって災害などが起こった時に、地域のためにどう対応すればいいのか考えるようになった。
- ・ 最初はただ地域の人に喜んでもらうために作っていたけど、だんだんと地域の人を助けたい、役に立ちたいという気持ちに変わった。
- ・ どこに住んでいる方が80歳以上の一人暮らしなのか分かったし、顔見知りになったので、災害があった時は助けにいけるようになったし、私たちに何かあった時は助けを求めることもできる助け合いができる関係ができた。
- ・ 地域に住む高齢の人たちに寄り添って考えることができるようになった。地域の防災についても考えるようになった。



民生委員の方の話聞く様子



地域の方へ防災カレンダーを届ける様子

3 「デジタル機器」の活用

- 「防災カレンダー」作りに必要な情報を考え、タブレット端末を活用して主体的に調べることができた。
- 多様な意見を整理するツールとしてもタブレット端末を有効に活用できればよかった。また、十分な時間がとれなかったため、インターネットで収集した資料をどう活用したらよいか迷っている生徒も見られた。

別紙様式